

初秋どりアールスメロンの有望品種

農業研究センター 球磨農業研究所

研究のねらい

9月中旬から10月上旬に出荷されるアールスメロンは、生育はじめは梅雨期にあたり果実肥大期から成熟期にかけては高温期の栽培となるため、大玉になりやすく、黄化玉等の発生が多く極めて栽培しにくい。そこで球磨地域においてこの時期に適する品種の選定と、その特性を検討した。

研究の成果

1. 近年育成されている品種について栽培特性を検討した結果、「セイヌ夏」及び「サンデー盛夏型」が、この作型に適応し栽培できることが判明した。
2. 「セイヌ夏」は生育が早く雌花着生率はほぼ100%と高く、果実は2kgを超える大玉の長円形であるが、糖度は15%以上でネットの発現も安定している。栽培上の注意点として大玉になりやすいので、活着後の灌水は控え、樹を作り過ぎないようにする。
3. 「サンデー盛夏型」は生育は遅く葉はやや大葉である。雌花着生率は80%以上で安定している。果実は1.7kgの中位で、ネットの盛り上がりにやや欠けるが、糖度は15%以上で品質が高い。
4. 栽培については玉がややしまりやすいので、交配後の灌水量を増やし果実肥大を促進させることが望ましい。

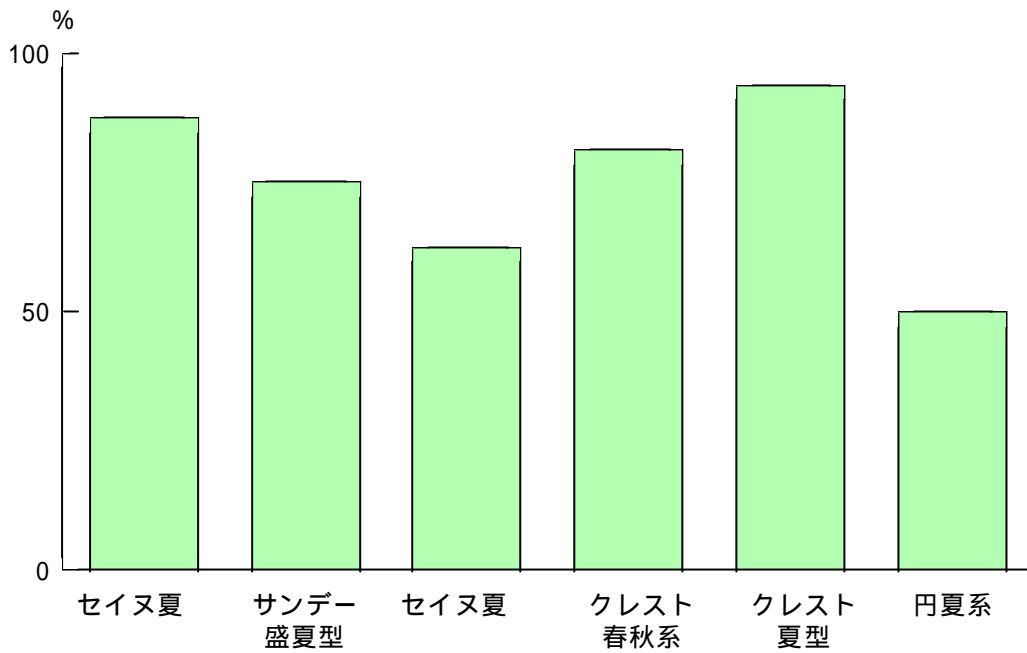


図 1 雌花着生率(12～16節)平成2年

表 1 果実品質(平成2年)

品 種	一果重	糖度	ネット	裂果	黄化玉
セイヌ夏	2,300g				
サンデー盛夏型	1,670				
セイヌ夏	1,820			×	
クレスト春秋系	2,120				
クレスト夏型	1,580				
円夏系	2,180				×

裂果 --- 少 × 多発
 黄化玉 --- 少 × 多発